

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 3年 2月 8日

公表: 令和 3年 2月 16日

事業所名 ウイルはあと高浜

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		子どもたちにも協力してもらい、スペースの確保をしています。	広い空間ではありませんが、活動ごとにスペースの確保していきます。
	2 職員の配置数は適切である	100%		現在は配置数は適切です。	利用定員数が増加に伴い職員を増やすことを検討しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	25%	75%	バリアフリーではありませんが、職員や保護者と車いすなどの対応をしています。	子どもたちが過ごしやすいように、構造化された工夫は行っていますが、物理的なバリアフリーの対応にはなっていません。職員で対応していこうと考えています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%		空気清浄機や、加湿器で感染を予防しています。	コロナ禍でもあるため生活空間は清潔に保ち、感染面でも細心の注意をはらっています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	50%	業務改善には日ごろから取り組んでいます。	職員も増えるため、PDCAサイクルを今後周知していきます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	25%	50%		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%		第三者評価としての契約はありません。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		外部研修にでています。内部研修も行っています。	内部研修は月に1回行っています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%		契約時に保護者様と情報の共有に努め、課題の分析しています。	今後も、保護者様からの情報をもとに職員間で分析し、児童発達支援計画を立案しています。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%	事業所で作成したアセスメントツールを使用しています。	事業所で作成したアセスメントツールを使用し、状況把握に今後も努めていきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	75%	25%		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%		立案した計画をもとに支援しています。	今後も継続して行っています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			支援計画を含め、活動内容の振り返り、見直しをしています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			固定化しないように努めていきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	75%	25%	作成しています。	子どもの状況に応じて、児童発達支援計画を作成していきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		多職種の職員で、専門知識をもとに打ち合わせしています。	多職種で役割分担をし支援しています。今後も行っていきます。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		支援終了後には、振り返りを必ず行い、次回の支援に活かしています。	利用後に職員間で振り返りを今後も行い、より良い支援が出来るようにしていきます。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		支援については必ず記録を残すようにしています。	支援したことは記録に残し、より良い支援ができるよう、職員間で検討し次回の支援に繋げてきます。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	75%	25%		支援したことは記録に残し、より良い支援ができるよう、職員間で検討し次回の支援に繋げていきます。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		日々支援している者が、サービス担当者会議に参加しています。	サービス担当者会議には予定をあげ、適した職員が参加できるように、今後も努めていきます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	25%	75%	関係機関の皆様には丁寧なつなぎと連携をさせて頂いております。	今後も、関係機関の皆様との連携を密にし、より良い支援が提供できるようにしていきます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	75%	25%	該当児がいません	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		100%	該当児がいません	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			今後移行支援が必要になっていくお子様もいるので、情報共有と相互理解を図って行きたいと考えております。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			今後移行支援が必要になっていくお子様もいるので、情報共有と相互理解を図って行きたいと考えております。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	25%	75%		今後行うことが必要と考えています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50%	50%		幼稚園に通園しながら通っていただいているため、送迎時に短時間ですが交流する機会はあります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		100%		今後は参加し、お子様が安心して育つことのできる地域づくりにも協力して行きたいと考えております。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	75%	25%	連絡帳に利用中の様子を記録し共通理解が出来るようにしています。	利用後には、利用中の様子を伝え、現状の課題の共通理解が出来るように今後も努めていきます。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	75%	25%	開所して時間も浅いため、現在は信頼関係の構築をしています。	今後、子どもの利用していない時間に、保護者会などを開催し、支援出来たらと考えております。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時に運営規程、利用者負担等については説明しています。	今後も保護者の方に分かりやすく丁寧に説明していきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%		同意を得ています。	今後もガイドライン等を基にして、「児童発達支援計画」を作成し、支援内容を説明し、保護者から同意を得ていきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		送迎時や連絡帳で支援を行っています。	送迎時に保護者からの相談があれば今後もしていきたいと思っております。必要があれば、相談時間を設け対応させていただきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%	75%	現在父母の会などは開催しておりません。	保護者同士の連携や、保護者の声の集約は必要だと考えております。今後、事業所内で、保護者同士の交流の場が提供できたらと考えております。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		必要に応じて相談などを行っています。	保護者様が気軽に相談しやすい環境を作りたいと思っております。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50%	50%	会報はありませんが、インスタグラムやホームページで発信しております。	インスタグラムやホームページをみて安心されるご家庭もあるため、今後も継続して発信していこうと思っております。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%		鍵付きの書庫で保管しています。	今後も厳重に保管していきます。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		口頭だけでなく紙面上でも伝達しています。	視覚情報などで確実に情報伝達できるように配慮していきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	25%	現在は行っていません。	今後、行うことが必要と考えています。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%		マニュアルは作成しています。	保護者にも周知していきたいと思います。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		防災訓練を月に1回実施しています。	今後も、子どもたちと一緒に訓練していこうと思います。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%		契約時に確認しています。	契約時に確認し、必要時お薬手帳や、病院の通院歴を教えてください。今後も継続していこうと思います。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	現在該当児なし。	今後必要があれば対応していきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	25%	75%	事例集は作成していませんが共有はしています。	今後、ヒヤリハット事例集を作成し、職員間で共有していきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%	研修で実施しています。	今後も行っていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	25%	75%	現状では身体拘束の必要性を感じておりません。	必要があれば今後行っていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。